

新聞は興味がないことも見られるところを学んだ。家は新聞を取っていないからあまり読む機会がないけど、なるべく読んで長文に慣れることと記事の内容を読み取る練習をしてこれからの生活に生かしていきたい。

新聞は昔から社会の情報伝達の中樞を担ってきた。しかしニューメディアの発達により、その需要度は低くなっているとわかる。そのなかでも完全に新聞という存在が無くならないのは、やはり必要とされているからであろう。客観性の高い情報を提供することは新聞にしか出来ないことであるし、いくら SNS が広がっても紙面の新聞の安全性というブランド力は落ちないだろうと思う。SNS と新聞、情報源をどちらかに絞ろうとは全く思わない。今回の講義をきいてますます、新聞の凄さを知り、SNS の利便性を感じた。これからの社会を担う私たちは、多くの情報を使いこなすために様々な方法で、様々な情報に触れなければならないと思った。

新聞が生き残るために大変な工夫をされているとおっしゃっていた中で、一番印象に残っているのは、誰のために書くのかということは決して忘れてはいけないとおっしゃっていた事です。読者に読んでもらうためには、まずアクセスしてもらわないといけない。記事を読んでもらうためには、まずアクセスしてもらわないといけない。記事を読んでもらうためには、まずアクセスしてもらわないといけない。記事を読んでもらうためには、まずアクセスしてもらわないといけない。そんな中でキャッチーな見出しをつけたり、目を引くような写真や動画をはりつけたり

する工夫も必要だ。しかし、そんなことばかりしていると、偏った記事になってしまい、信頼を失ってしまうことになりかねない。だから、読んでもらうことはもちろん大事だけれど、日経新聞の読者にピントを当てて、情報を提供することが大切である。編集者が自分の確固たる価値観を大事に、バランスの取れた記事を提供することが一番重要であるということを学びました。新聞社の方は世間の読者のために、一生懸命に努力していることがわかって、もっと新聞を読もうと思いました。

新聞は正しい情報を正しい言葉で個人の意見なしに伝えてくれる、現代の社会には貴重なツールであるという事を学びました。

今日の講義までに私達は3枚の新聞ワークを行いました。普段新聞を触ることもないので、記事を選ぶのも、読むのも慣れないことでした。それだけ私にとって新聞は遠い存在になっているのだと思いました。新聞ワークをした時に社会で起こっている問題に対して多角的に、批判的に考えることの大切さを実感しました。正しい情報をしっかりと伝えてくれる新聞は私達の考える能力を鍛えてくれる役割を担う、良い物だと思いました。

新聞のデジタル化が進んでいますが、紙の新聞と変わらず、多くの人のチェックが入り、読み手に正確な情報を提供していることが分かりました。

また、それぞれの新聞会社においてそれぞれの価値観に基づいて、ニュースを取り上げていることも分かりました。

多くの人がチェックしても防げなかったミスがあることを知り、誤報しないのは難しいことだと思いました。

情報は生きていく上で切っても切れない関係である。もちろんいい付き合い方をしていけないといけない。世の中のことには、大抵の良い面と良くない面だけの2者があると思われがちだが、ぼくはそうはおもわない。もっといろんな角度、いろんな面、そういったものはあると感じる。だからこそ、これは良くないから。とか、これはいいねといった、そんな単純な判断でものごとを見誤りたくない。そのためにもいろんなことに自分もアンテナをはっていかうと思った。

最近様々なところで情報リテラシーという言葉を目にするようになりました。正直自分に情報リテラシーが身につけてるのかと言われるとそうでないと思います。1つのサイトで見たことをすぐ鵜呑みにしてしまうし、たくさんいいねやRTがついていたらそれが正しいと思ってしまいます。ですが今日の講義を経てそれはただ大多数の意見に従っているだけなのだということを学びました。これからは1つのニュースにしてもたくさんの会社やサイトなどを

見比べ、どれが正しいのかを見極められるようにしたいです。

私はこの講義を受ける前は手軽で簡単に情報が入ってきやすいニューメディアの今の勢いにいつか新聞は潰されてしまうのではないかと思っていたが、形を変えても新聞としてのあり方はこれからも変わらないのだと知り、少し安心した。ネット上に投稿するものとなると、少しグレードが下がる感じがして、紙面で情報を提供していた時よりも記事のチェックが簡易的になるのではと思っていたからだ。だが、新聞社はわたしが思っていたより仕事や方針に対してプライドが高く、さらには色々な業界や企業からの信頼も大きいのだと感じ、これはニューメディアにはなかなか手に入れられない、新聞社の勝る点だと思った。

ニューメディアは誰でも簡単に発信できるためきちんと校閲されないまま世の中に情報として流出してしまいます。情報の正確さは欠けている部分があり、情報の分野に偏りがあることも問題に挙げられます。それを補うのが新聞の役割だと、講義を聞いて感じました。正直に言うと私は今全く新聞に触れていない状態にあります。家で取ってはいるけど読もうともしていません。まずは新聞を開くところから初めて、様々な分野の情報に触れてみたいと思います。

多く共有されたり多数派であることが正しいものだという考えに以前から疑

問を持っていました。お話にもあったように、自分の価値観を決定しその上で情報の受け取り方を見直すべきだと感じました。そうする上ではやはり、何人もの校閲を経て最も客観的な情報である新聞を読むことが、自分の価値基準を形成することが繋がるのだと思います。

新たな機器が登場することで、便利になる人もいれば、逆に不便になったり、困る人もいると知った。将来紙の新聞がなくなってしまうと、誰かが不便に思うことがないのか疑問に思った。新聞を作るために何人もの努力があって、それも僕たちが正しい情報を得るためだと知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。新聞は情報の詳しさだけでなく、見出しだけで大まかな内容を理解できるという利点もあると知った。それぞれの新聞社で政府に批判的か賛成的かなど個性が出るのが面白いと思った。

新聞についての討論をして、新聞の強みと弱みの両方を知ることができたので、新聞を何人もの人が確認していることなどの強みを残したまま、かさばるところや映像がないところなどの弱みを補えるデジタル化することはとてもいいことだと思いました。また、情報リテラシーを鍛えるために自分を客観的に見るクールな視線を持ったり、情報を生かす知力と判断力をつけ、新聞を活用することが大切なのだとわかりました。

日経新聞さんは日本で初めて完全電子版を作ったということを学んだ。しかし初めてがゆえ困ることがたくさんあるらしい。例えば新聞の白黒にはないようなカラーデザインだ。他にもデジタルの世界では書こうと思えばいくらでも文章を長くできるので、その量の調節が難しいそう。今もなお模索しており、ツイッターで告知するなどして電子版に顧客を増やそうとしている。新聞記者は誰も知らないような情報をいち早く表に出すことができ、それらが社会全体を動かすことができる。これはインターネットの情報ではできないことだ。

新聞にもニューメディアにもそれぞれ、良い面とそうでない面があることが分かった。私は家で新聞を取っているけれど、新聞を読むことはあまりない。しかし、今日話を聞いて新聞は何人もの人が校閲しているため、正しい情報のことが多かったり、自分の興味の有る無しに関係なく様々な情報を得ることができたりするということが分かったので、これからは1日に1回は新聞をめくる習慣をつけたいと思った。また、今日教えて頂いた新聞の読み方も参考にしたいと思いました。

新聞の強み、弱点について考えた時に、自分の思うより新聞の強みがたくさんあった。確かにSNSなどネットから情報は手軽にスマホ1つあれば得られる。

しかし、情報の確信性は低く誰もが情報発信をできるという点を利用し、フェイクニュースなどによって利用者を翻弄する人も出てきていることから、新聞は何度も推敲し確かな情報を発信しているという点で、新聞の大切さをより感じた。また私の中でも、どこかに「新聞から得た情報は正しい」と前提としておいているところがあり、新聞は長年の信頼があることを感じた。ニューメディアの興味のもつものだけがどんどんオススメとして出てくるというのは、もちろん利点であるとは思いますが、新聞を読み今は興味が無いものも視野に入れることで、物事を考える視野が広がり、新しい発見をできるかもしれないことを学んだので、これからも新聞を読み続けていきたいと思った。

マスコミの主義主張やニュースの価値判断が様々だと言う話が印象に残った。それぞれの新聞社に社説があって、それをもとに記事を書いていると分かった。またニュースの価値判断については、情報の偏りがないようにしないといけないが読者の読みたい情報を届けないといけない、情報源は必要だが権力とは適切な距離が必要など、ジレンマがあることもわかった。私たちは、SNSでシェアや拡散されているものが正しい情報とは限らないということを頭に入れておきたいと思った。

新聞で得られる収入より電子版の収入の方が多い新聞社があると聞き、僕は新

聞のデジタル化は新聞業界が回復するきっかけになると思う。新聞がデジタル化することで紙の新聞が一度に多くの記事を見れることやスマホの手軽さ、見やすさ、などいいところはそのまま逆に新聞紙にはない画像や読みにくさ、スマホで見るニュースの偏在性など、お互いの悪い所を補うことができると思ったからだ。

自分もだが、ネットに依存しており紙で書いたり読んだりする機会が乏しくなっている。私が考える新聞のいい所は、自分の興味がある分野だけでなく、視覚に入ってきた全ての情報を得ることが出来るという事だ。情報量の多さではネットを上回ることを武器に、これからも紙面を手にして活字を読んでいきたい。

日経新聞社さんは電子版を中心とした体制への移行に力を注いでいるとお聞きし、素晴らしいなと思いました。長年新聞だけを作り続けてきたプライドなどがあるのにしっかりこの世の中で生きていく術を模索しているところがすごく素敵だと感じました。私が思ったのは、ニューメディアとメディアを融合させて利用することです。ニューメディアは情報のすばやさ、あらゆる方法で伝えられること(映像、文章、画像)、情報量が無限にあるということなどが利点であるけれど信頼性は高くないし、間違えていることだって、大いにありま



す。そしてその誤情報が誰かの人生を狂わせたりすることもあると思います。だからこそ、ニューメディアを見たあとで改めて新聞記事にはどう書いてあるのか一旦主観的な目線無くして読んでみることで改めて理解したり出来ると思います。だからこそどんな関わり方でもいいから堅苦しいという固定概念を無くすためにも流し読みをしたり見出し、リードを読んだりするだけでも大切だと感じました。